

The 27th Annual Local Meeting (Th Ishikawa Branch) of The Japanese Society of Clinical Cytology

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/27817

『学会開催報告』

第27回日本臨床細胞学会
石川県支部学術集会The 27th Annual Local Meeting (The Ishikawa Branch)
of The Japanese Society of Clinical Cytology金沢大学大学院医学系研究科分子細胞病理学
(病理学第一)

鈴木 潮 人

平成23年1月30日(日), 金沢大学医学部教育棟第一講義室において第27回日本臨床細胞学会石川県支部学術集会を開催しました。日本臨床細胞学会石川県支部は, 細胞診専門医と細胞検査士を中心とした138人の会員からなり, 本学術集会は年に1回開催されています。当日は早朝から大雪に見舞われたため, 出席者が少数になるのではないかと危惧されましたが, 幸いにも, ほぼ例年並みの出席者がありました。

教育講演として, 座長の大井章史先生(金沢大学大学院医学系研究科分子細胞病理学), 講師の村田晋一先生(埼玉医科大学・国際医療センター病理診断科)を招聘し, 医師, 細胞検査士等を対象とした「新しい腎盂・尿管・膀胱癌取扱規約と尿細胞診」というタイトルで講演を賜りました。講演では「新しい規約における変更点」, 「尿路上皮癌の異型度判定」, 「尿細胞診の目的と問題点」, 「尿細胞診の診断アプローチ法」の項目に分けて, 多数の症例を供覧しつつ尿細胞診に際して注意すべき所見の取り方など, 日常の業務ですぐに取り入れることが出来る内容から, 新しい分類法による疾患概念や基礎研究の内容まで幅広くご教授いただきました。多数の質問および熱心な討議があり, 講演後, 出席者からは, 尿細胞診に関する理解を深める良い機会となったと好評でした。

一般演題のセッションでは, 北村星子先生(金沢大学附属病院病理部)と片柳和義先生(石川県立中央病院病理診断科)に座長をお願いし, 「肺原発癌肉腫の1例」(朝倉善史先生他, 金沢医科大学病院病理部), 「若年発症の後腹膜GISTの1例」(笠島里美先生他, 金沢医療センター臨床検査科), 「腔壁原発悪性黒色腫の一例」(青田彩先生他, 金沢大学附属病院病理部), 「喀痰・気管擦過細胞診で診断困難であった甲状腺乳頭癌の一例」(小林雅子先生他, 金沢市立病院臨床検査室)と題した発表がなされました。通常経験することが少ない症例に関する報告が主体で, 出席者は複数の臓器における希少症例に関して理解することが出来ました。さらに, 対象となった希少症例のみならず, 通常経験する疾患や診断困難例についても, 診断に際して着目すべき所見や鑑別に挙げるべき疾患について熱心な議論がなされ, 出席者にとって実際の業務に役立つ幅広い知識を得る良い機会となりました。これらの診断業務に関する内容に加えて,

「石川県における細胞検査士数の現状報告」(尾崎聡先生他, 細胞検査士会石川県支部)の発表があり, 石川県の検査士を取り巻く現状とともに, 若手検査士の不足といった今後の予想される状況についても報告されました。これに対し, 日本臨床細胞学会石川県支部として状況を好転させるために取るべき方策について議論がなされ, 会員としての認識を新たにすることが出来ました。

スライドセミナーでは, 「大理石骨病に伴って発生した傍脊柱髄外造血」(丹羽秀樹先生, 石川県立中央病院病理診断科), 「唾液腺のオンコサイト癌」(佐藤勝明先生, 金沢医科大学病理病態学), 「卵巣の悪性リンパ腫」(高倉正博先生, 金沢大学大学院医学系研究科分子移植学), といった比較的稀な疾患が取り上げられました。発表者による症例の提示に対し, 検査士が標本の所見について述べ, 予想される診断を回答しました。続いて発表者によって, 該当する疾患に関する分かりやすい解説がありました。こうした解説や討論の内容は, 経験の浅い検査士のみならず, 長い経験を有する検査士や指導医にとっても有意義なものでした。

最後に, 当日は悪天候にもかかわらず御来場いただいた方々にお礼を申し上げると共に, 本学術集会を支援していただいた金沢大学十全医学会の皆様へ深く感謝します。

